

学位論文要旨

19—20 世紀轉換期日本のキリスト教系幼稚園に
おける音楽活動に関する研究
—米国との関わりに着目して—

広島大学大学院教育学研究科
文化教育開発専攻

D135227 井本 美穂

論文題目

19—20 世紀転換期日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動に関する研究—米国との関わりに着目して—

I. 論文構成

序章

第1節 研究の目的

第2節 先行研究の検討

第3節 研究の方法

第1章 19-20 世紀転換期の米国の幼稚園における音楽活動の実践内容と課題

第1節 19-20 世紀転換期の米国の公教育における音楽活動への進歩主義思想の影響

第2節 19-20 世紀転換期の米国の幼稚園における教育理念の変化

—フレーベル主義から進歩主義へ—

第3節 19-20 世紀転換期の幼稚園カリキュラムにおける音楽の内容

—ニューヨーク市の『幼稚園の音楽指導要領』を例として—

第1項 『幼稚園の音楽指導要領』における幼稚園の活動内容

第2項 『幼稚園の音楽指導要領』における音楽領域の内容

第4節 19-20 世紀転換期の雑誌『キンダーガートン・レビュー』にみる保育における音楽活動

第1項 『キンダーガートン・レビュー』に掲載された米国の幼稚園における音楽活動の内容

第2項 『キンダーガートン・レビュー』における幼稚園の音楽についての関心事項

1-4-2-1. 歌の選曲方法—複雑な歌から単純で子どもらしい歌へ—

1-4-2-2. 小学校の音楽活動との関連からみた身体表現の可能性

1-4-2-3. 幼稚園の音楽活動を担う教師の音楽能力の重要性

第2章 19-20 世紀転換期の米国における幼稚園教員養成校の教育内容と音楽の位置づけ

第1節 20 世紀初頭の国際幼稚園連盟 (IKU) による幼稚園教員養成カリキュラムモデルの開発

第2節 コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジの幼稚園教員養成と音楽の位置づけ

第1項 ティーチャーズ・カレッジの概要

第2項 ティーチャーズ・カレッジの幼稚園教育学科の授業科目と音楽領域の位置づけ

2-2-2-1. フレーベル主義に代わる新しい教育理論の探究

2-2-2-2. 小学校との関連性を意識したカリキュラム編成

2-2-2-3. 理論と実践を往還することによる理論を基盤とした実践力の育成

2-2-2-4. 教師教育重視に伴う師範学校教員養成へのシフト

2-2-2-5. 音楽領域の位置づけ—フレーベル理解から教育の要素としての音楽へ—

第3項 習慣形成を重視した『コンダクトカリキュラム』

2-2-3-1. 音楽に対するリズム的反応 (身体の動きによって)

2-2-3-2. 音楽に対するリズム的反応 (楽器によって)

2-2-3-3. 創造性の育成をめざした歌の活動

2-2-3-4. 表現活動を伴う鑑賞

第3節 シカゴ大学教育学部の幼稚園教員養成カリキュラムにおける音楽

第1項 シカゴ大学教育学部の概要

第2項 シカゴ大学教育学部における幼稚園教員養成分野の授業科目

第3項 シカゴ大学教育学部の音楽の授業科目と担当教員の思想

2-3-3-1. スミスによるフレーベルの教育思想に基づいた音楽指導

2-3-3-2. カーンによる音楽的要素に基づく音楽理解と鑑賞力の育成

第3章 米国における幼稚園カリキュラムの標準化と音楽の位置づけ

第1節 米国幼稚園標準カリキュラムの礎を築いた『幼稚園カリキュラム』の発行

第1項 『幼稚園カリキュラム』の概要

第2項 音楽領域の位置づけと内容

3-1-2-1. 歌唱活動による音楽技能と社会性の育成

3-1-2-2. リズム活動による平衡感覚および身体の統制力の育成

3-1-2-3. 歌づくり・創作ダンスによる創造力の育成

3-1-2-4. 鑑賞力の育成へつながる聴取

第2節 幼小接続に重点をおいた『幼稚園と第1学年のカリキュラム』の発行

第1項 『幼稚園と第1学年のカリキュラム』の概要

第2項 音楽領域の位置づけと内容

3-2-2-1. 『幼稚園カリキュラム』との系統性

3-2-2-2. 理論に比重を置いた第1学年のカリキュラム内容

第3節 IKUの活動における音楽の位置づけと史的意義

第4章 『京阪神幼稚園遊嬉』におけるキリスト教系幼稚園と非キリスト教系幼稚園の音楽活動

第1節 明治から大正期における日本の幼稚園の音楽活動の状況

第2節 『京阪神幼稚園遊嬉』にみる非キリスト教系幼稚園の音楽活動との比較

第1項 『京阪神幼稚園遊嬉』の概要

第2項 『京阪神幼稚園遊嬉』の内容—身体を用いた表現方法の違い

第5章 フレーベルの教育理念を基盤とした『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』

—頌栄幼稚園の音楽活動—

第1節 頌栄幼稚園の創立者ハウと米国との関わり

第2節 頌栄保姆伝習所編『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』におけるフレーベルの影響

第1項 『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』の概要

第2項 『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』のフレーベル理念との関連性

5-2-2-1. 祈祷歌にみられる神とのつながり（祈祷歌、朝の歌、クリスマスの歌）

5-2-2-2. 自然界についての歌にみられる自然の感受（四季の歌、雑歌、花の歌）

5-2-2-3. 指遊びの歌にみられる音楽による調和

5-2-2-4. 恩物歌による知育および万物とのつながりへの志向

5-2-2-5. 進行歌にみられる一致した動作への着目

5-2-2-6. 輪遊びの歌にみられる秩序遵守力の育成

- 5-2-2-7. 五感の歌による身体感覚の基盤形成
- 5-2-2-8. 職業の歌における自己と生活との関わりへの意識づけ

第6章 子どもの創造性と社会性の育成をめざした『遊戯唱歌』
—広島女学校附属幼稚園および保姆師範科の音楽活動—

- 第1節 広島女学校附属幼稚園の沿革
- 第2節 広島女学校附属幼稚園における音楽活動—宣教師による米国の進歩主義教育の導入
- 第3節 広島女学校保姆師範科編『遊戯唱歌』の内容—主体性と創造力の育成—
 - 第1項 『遊戯唱歌』の構成—歌とリズムおよび遊戯—
 - 第2項 子どもの主体的な表現をとり入れた歌
 - 6-3-2-1. 曲調と身体表現との関連性に着目した選曲
 - 6-3-2-2. オノマトペを取り入れた模倣表現
 - 第3項 子どもの身体表現力を喚起するリズムおよび遊戯
 - 6-3-3-1. リズムの特徴をとらえた身体表現
 - 6-3-3-2. 心理的表象としての音楽表現
 - 6-3-3-3. 身体表現の基盤となるリズム感覚の獲得
 - 6-3-3-4. 歌詞内容に基づく創造的な表現の工夫
 - 6-3-3-5. 子ども同士の模倣による創造的な表現の共有

第7章 キリスト教系幼稚園における音楽活動の実践—遺愛幼稚園における日誌をもとに—

- 第1節 遺愛幼稚園の沿革
- 第2節 遺愛幼稚園における音楽活動の内容
- 第3節 遺愛幼稚園の保育内容と音楽の位置づけ
 - 第1項 「学課」に基づく1日の保育内容と音楽の位置づけ
 - 7-3-1-1. 歌をとおした自然物への体験的理解
 - 7-3-1-2. 歌をとおした日本の行事と身近な生活との関係性への認識喚起
 - 7-3-1-3. 様々な事象と関連づけた音楽についての理解促進
 - 第2項 創造力を活かす歌の導入と音楽活動内容の変化

第8章 協同性の育成に着目した『幼稚園の遊戯歌』—JKUの音楽活動—

- 第1節 JKUの概要—教派を越えたキリスト教系幼稚園の情報伝達の間として—
- 第2節 国際幼稚園連盟（IKU）との交流による新教育思想の受容
- 第3節 JKUの音楽活動—創造性および身体表現に着目した取り組み—
 - 第1項 JKUの年次総会における音楽に関する活動
 - 8-3-1-1. 遊戯の実践にみる身体表現の重視
 - 8-3-1-2. 『幼稚園の遊戯歌』の製作
 - 第2項 キリスト教系幼稚園の音楽活動の指針としての『幼稚園の遊戯歌』の内容
 - 8-3-2-1. 『幼稚園の遊戯歌』の曲目
 - 8-3-2-2. 『幼稚園の遊戯歌』における創造的な身体表現
 - 8-3-2-3. 『幼稚園の遊戯歌』にみられる音楽表現の特徴

終章 19-20 世紀転換期のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質

第1節 総括

第2節 今後の課題

引用参考文献・史料

II. 各章の概要

序章

本研究の目的は、19 世紀末から 20 世紀初期の日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質を明らかにすることである。日本の 19-20 世紀転換期にあたる明治期から大正期に関するこれまでの幼児音楽教育史研究においては、本格的に幼稚園教育を始めた東京女子師範学校附属幼稚園をはじめ、主に公立幼稚園における音楽活動を対象として研究が蓄積されてきた。その内容は主に、唱歌集の楽曲分析である。唱歌は、幼稚園の創設当初から幼稚園における活動の 1 つとして位置づけられた。当時の唱歌には雅楽調の旋律が用いられ、歌詞は漢文調であったために、子どもにはなじみが薄く、歌唱が困難であった。その後、子どもの発達と心情を考慮した唱歌へと変化を遂げていった。

一方、主に外国人宣教師によって設立されたキリスト教系幼稚園では、設立当初から欧米の歌を用い、公立幼稚園とは異なる音楽活動が行われていたことが、先行研究によって示されている。しかし、その相違が生じた要因、すなわちキリスト教系幼稚園において音楽活動がいかなる特質を持っていたのかについては、いまだ解明されているとはいえない。日本の幼児音楽教育の変遷を把握するうえで、キリスト教系幼稚園における音楽活動の位置づけを明確にしなければ、その教育史は一面的なものにしかならないと考える。そのため、キリスト教系幼稚園における音楽活動の内容を明らかにすることは、我が国の幼児音楽教育史上、大きな課題であるといえる。

そこで、本研究では頌栄幼稚園、広島女学校附属幼稚園、遺愛幼稚園の 3 つのキリスト教系幼稚園、および日本のキリスト教系幼稚園に勤務する宣教師によって結成された日本幼稚園連盟（Japan Kindergarten Union, 以下 JKU）を取り上げ、キリスト教系幼稚園における音楽活動の内容を明らかにする。用いる史料は、頌栄幼稚園については『幼稚園唱歌』（1892）『幼稚園唱歌続編』（1896）、広島女学校附属幼稚園については『遊戯唱歌』（1915）、遺愛幼稚園については日誌および幼稚園に保存されている手書き楽譜、JKU については『幼稚園の遊戯歌』（1921）とする。加えて、キリスト教系幼稚園およびキリスト教以外の幼稚園において実践されていた遊戯を収集し編纂された『京阪神幼稚園遊嬉』（1912）を分析し、キリスト教系幼稚園の音楽活動の特徴を把握する。しかし、日本のキリスト教系幼稚園の音楽活動に関しては史料が少ないという制約があり、日本の状況を検討するのみでは当時のキリスト教系幼稚園の音楽活動を明らかにすることは困難である。この問題を克服する方法として、本研究では同時期の米国における幼稚園教育に着目し、日本のキリスト教系幼稚園の音楽活動と比較検討しながら考察する。

20 世紀前後は、米国の幼稚園教育が理念面でも実践面でも大きく変動した時期である。1856 年に米国初の幼稚園が創設されて以来、フレーベルの幼児教育理念を基盤としたフレーベル主義幼稚園が主流となっていた。しかしフレーベル主義幼稚園は恩物を用いた形式的・画一的な教育を行っているとの批判が生じ、1890 年代から、より子どもの生活経験に基づいた教育が必要であるとする進歩主義幼稚園運動が繰り広げられた。音楽の領域についても、幼稚園における音楽の役割や活動方法などに関して、様々

な議論および実践が行われた。これらの議論や実践を基盤として、1919年に幼稚園の全米標準カリキュラムが作成された。以上のように、19-20世紀転換期は、幼稚園に関する教育思想および実践方法について探究された時期である。

近年の幼児教育史の分野では、明治後期から大正期のキリスト教系幼稚園において、米国の新教育思想を基盤とした教育が実践されていたことを示す研究が注目されている（永井 [2016]、橋本 [2018]）。また金子（2014）は、地方のキリスト教系幼稚園が米国の教育方法をいち早く導入して実践していたことを明示し、当時の日本におけるキリスト教系幼稚園の存在意義を論じている。

本研究で扱う曲集および史料に関する先行研究では、各曲集の歌詞の内容から曲集の目的を考察した論考、音楽の構造を分析した研究などが進められてきた。『幼稚園唱歌』については高野（1973）、三村（1996）滝田（2002）西野（2016）、『遊戯唱歌』は持田（2016）、遺愛幼稚園は原子・伊藤（2010）、永井（2011）による研究がある。『幼稚園の遊戯歌』については未だ分析されていない。

しかし、これらの先行研究においては、キリスト教系幼稚園において編纂された曲集を横断的に分析し、米国の幼稚園との音楽活動との関連性をふまえてキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質を明らかにする論考はなされていない。

米国の幼稚園の音楽活動に関しては、国内外において多様な史料が残されている。そこで本研究では、米国の19-20世紀転換期における幼稚園の音楽活動を史料の分析を通して詳細に調査することにより、米国の取り組みが日本のキリスト教系幼稚園の音楽活動にどのような関わりをもっていたのかという観点から、日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質を明らかにする。

具体的には、20世紀初期の米国における音楽環境、幼児教育専門組織の活動、カリキュラム、幼児教育雑誌、保育者養成校の取り組みなどを調査し、当時の米国の幼稚園においてどのような音楽活動が行われていたのか、またその活動の意義を明らかにする。そのうえで、それらの結果と日本のキリスト教系幼稚園の音楽活動との関わりについて、日本のキリスト教系幼稚園で使用されていた楽譜および日誌をもとに考察することにより、これまで明らかにならなかった19-20世紀転換期の日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質について総合的に考察する。なお、本研究では、幼稚園の保育のなかで行われる、音楽を伴う活動を「音楽活動」として捉え、聴取、歌唱、音楽に合わせた身体表現、歌の創作、楽器演奏を含むものとする。

第1章 19-20世紀転換期の米国の幼稚園における音楽活動の実践内容と課題

第1章では、19-20世紀転換期の米国の幼稚園における音楽活動の実践状況および課題とされていた事項について、当時の幼稚園の指導要領の内容および幼児教育雑誌に掲載された音楽に関する記事を事例として明らかにした。

ニューヨーク市の『幼稚園音楽要領』（*Course of Study in Kindergarten Music Physical Training, 1903*）では、幼稚園の音楽活動は歌唱に加えてリズムに合わせて動くなどの身体表現が取り入れられていた。雑誌『キンダーガートン・レビュー』（*Kindergarten Review*）においては、幼稚園で用いる歌に関して、幼児に適した歌とはどのようなものかについての議論が行われており、歌詞の内容のみならず、声域・音程・フレーズ・リズムなどの面から多角的に検討されていた。また、歌を創作する活動および音楽を聴いて感受したことを身体で表現する方法などの記事が多くみられ、子どもが自発的に行う創造的な表現活動が着目されていたことが明らかになった。さらに、このように幼稚園の音楽活動が多様化するに伴い、幼稚園教員の音楽能力を向上する必要性が指摘されていた。こうした幼稚園の状況および幼児教育関係者の課題意識を背景に、幼稚園教員養成校での教育の在り方についても改善が

求められていたことが明らかとなった。

第2章 19-20世紀転換期の米国における幼稚園教員養成校の教育内容と音楽の位置づけ

第2章では、当時の米国における幼稚園教員養成の内容を考察し、第1章で明らかになった実践状況と課題に幼稚園教員養成校がどう関わっていたのか、また状況改善のためにどのような取り組みを行っていたのかを示した。

まず、国際幼稚園連盟（International Kindergarten Union、以下 IKU）が1913年に米国の教員養成校を対象として実施したアンケート結果に基づき IKU が提案した幼稚園教員養成カリキュラムモデルの内容から、この時期にフレーベルの理念を基盤としつつ、児童研究の授業の導入および恩物を扱う授業の減少など、進歩主義教育思想を取り入れたカリキュラムが提案されたことを確認した。

次に、日本の幼稚園で保育を実施した宣教師との関わりが深いコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジおよびシカゴ大学教育学部幼稚園教員養成コースの授業内容の変遷を辿った。両大学においては、20世紀初頭にフレーベルの教育理念を基盤とした授業内容が減少し、進歩主義教育の理念を基礎とする授業へと変化を遂げていた。音楽活動については、コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ幼稚園教育学科の音楽授業内容および幼稚園教育学科のヒルが編纂した『コンダクトカリキュラム』(*A Conduct Curriculum for the Kindergarten and First Grade*, 1923)において、リズムに合わせた身体活動、および歌詞の創作、鑑賞がカリキュラムに位置づけられ、自発的な表現活動が重視されていた。また、集団活動をとおして社会性を養うとともに、子どもの個性を尊重する姿勢がみられた。その背景には、主体的に物事に関わり、民主的に問題を解決できる米国民になるための習慣形成の意図が込められていた。

シカゴ大学の幼稚園教員養成コースにおいて、1910年まで音楽授業を担当したスミス (Smith, Eleanor) は、フレーベルの教育理念に基づき、進歩主義教育の手法を取り入れた音楽活動を行っていた。スミスは、子どもが自己に内在する情動を表現することに音楽活動の役割を見いだしていた。そのため、従来行われてきた音楽技能の基礎訓練から知識を得るのではなく、歌うことによって、その音楽を特徴づける要素を体感する音楽活動を実施することをめざしていた。また、子どもから自然に生み出された旋律を尊重し、その旋律をもとに作曲する技能をもつ教員を育成しようと試みていた。

以上より、20世紀転換期のコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジおよびシカゴ大学教育学部幼稚園教員養成コースにおいては、フレーベルの教育理念を基盤としつつ、進歩主義教育思想を導入した幼稚園の音楽活動を実施する能力を育成すべく、音楽知識および創作の手法が教授されていたといえる。

第3章 米国における幼稚園カリキュラムの標準化と音楽の位置づけ

第3章では、前章までに分析した幼稚園および幼稚園教員の状況をふまえて IKU によって米国で初めて作成された幼稚園の標準カリキュラム『幼稚園カリキュラム』(*Kindergarten Curriculum*, 1919)および『幼稚園と第1学年のカリキュラム』(*A Kindergarten-First-Grade Curriculum*, 1922)の音楽領域の内容を精査することにより、これまでの幼稚園の音楽活動に関する様々な取り組みが、いかなる形でカリキュラムとして結実したのかを明らかにした。

『幼稚園カリキュラム』『幼稚園と第1学年のカリキュラム』では、幼稚園の音楽活動の主要な役割として、歌唱をとおした社会性の育成、リズムに応じた身体表現をとおした自己表現力および身体統制力の発達、および創作による創造性の向上が示された。リズムに着目した身体表現および創作は、幼児が自己を外部に表す手段として重視されていた。音楽を受動的に聴くのではなく、感受した音楽を身体で

表現することをおして、創造性を養うとともに、個性を認識する役割を音楽活動が受け持っていたと考えられる。こうした19-20世紀転換期の米国の幼稚園における音楽活動は、個性を尊重しつつ創造性・社会性を育成することを志向する進歩主義教育思想を反映した内容となっていたと捉えることができる。

第4章 『京阪神幼稚園遊嬉』におけるキリスト教系幼稚園と非キリスト教系幼稚園の音楽活動

第4章では、明治から大正期の日本の幼稚園の音楽活動について概観したうえで、1912（明治45）年に編纂された、京阪神における幼稚園の遊戯を所収した『京阪神幼稚園遊嬉』を分析し、当時のキリスト教系幼稚園とキリスト教以外の幼稚園における音楽活動の相違点について示した。

日本に幼稚園が導入された当初には、フレーベルの教育は導入されたが、その原点となる神の信仰に関わる内容は伝えられなかった。音楽についても、『フレーベルの母の遊戯・育児歌』の歌詞の内容は援用されたものの、旋律は日本で新たにつけられた。西洋の曲も用いられたが、歌詞は万葉集から抜粋するなど、原曲とは違う歌詞がつけられ、和洋を折衷し日本国独自の歌を作ることがめざされた。すなわち、フレーベルの教育理念に沿って作成された西洋の曲が直接用いられていたわけではなかった。

『京阪神幼稚園遊嬉』に所収されているキリスト教以外の幼稚園で用いられた曲では、遊戯の際に前後に進む歩数や、飛ぶ動作をする回数も決められていた。また、内容を模倣したものではない「拍手」をする動作が数か所にみられた。1904（明治37）年の京阪神連合保育会での研究会において、歌を伴う遊戯について「一定の基準の基に諸種の運動をなさしめてもって心情を快活にし身体の健全を計り共同の心を養ふものとす」（京阪神連合保育会 1904, p.15）と決められていることから、京阪神地域の幼稚園では、決まった動作を一緒に行うことで、「共同の心」を育成するという目的のもとに音楽活動が実践されていたのではないかと考えられる。

一方で、キリスト教系幼稚園の曲については、米国の曲が用いられ、リズムに合わせることを基本とし、曲調に留意した内容となっていた。また、曲調に合わせて子どもの感じた表現を行う自由が持たれていた。曲集編纂の説明において、「遊戯は自分の内面を表すことができる活動であること、外界と調和する源となる活動でもある。遊戯を行うなかで、純潔・温和・勤勉・創造性などの人間性を獲得していく。こうした人間性を形成する過程で、家族および自然、さらには神に対する態度も育成される」（ハウ編 1912, pp.4-5）というフレーベルの文言が引用されており、以上のようなフレーベルの教育理念をふまえて音楽活動を行っていたと捉えることができる。

第5章 フレーベルの教育理念を基盤とした『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』—頌栄幼稚園の音楽活動—

第5章では、シカゴの幼稚園に勤務した後来日し頌栄幼稚園および保姆伝習所を設立したハウ（Howe, A.L.）が編纂した『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』を対象とし、ハウの著作物、母校であるシカゴ・フレーベル協会幼稚園教師養成所（The Chicago Froebel Association）での学習内容などをふまえて、本曲集に内含された幼稚園における音楽活動の役割について論じた。

キリスト教系保育者養成校における保育者養成では、実践のみでなく幼稚園教育の理論が重視され、フレーベルをはじめ多様な教育家の教育理念が学ばれていた。さらに、フレーベルの教育理念の根底にあるキリスト教の思想についても理解を深めることがめざされていた。

『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』には、米国で編纂された曲集から抜粋された曲が用いられ、フレーベルの教育思想に基づき、それぞれの歌に教育的な意味が付されていた。その根底には、ハウが米国で

学んだ幼稚園におけるフレーベルの教育の理念および方法があった。ハウがシカゴ・フレーベル協会保姆養成所に在籍していた期間、第2章で検討したスミスが音楽授業を担当しており、本曲集にはスミスの曲が多数所収されている。本曲集における音楽の役割は、歌詞による知識や道徳に関する内容の伝達、フレーベルが求めていた調和を音型で表現すること、およびリズムにより情動を喚起することであったと考えられる。

第6章 子どもの創造性と社会性の育成をめざした『遊戯唱歌』

—広島女学校附属幼稚園および保姆師範科の音楽活動—

第6章では、広島女学校附属幼稚園の音楽活動の内容について、同幼稚園保姆師範科が編纂した『遊戯唱歌』(1915)を中心に検討し、進歩主義教育思想が音楽活動に反映されている様子を明らかにした。

広島女学校附属幼稚園は1891(明治24)年に開園した米国南メソジスト監督教会派のキリスト教系幼稚園である。本幼稚園は、米国の新しい幼稚園教育の理念および方法を直接学んだ教員を有し、その教育内容を幼稚園の活動に組み込んでいた。コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジで学んだフルトン(Fulton, J.F.)が編纂した『遊戯唱歌』は、附属幼稚園児の日々のあそびを観察し、子どもたちの活動に合う楽曲を海外の曲集から選定していた。『遊戯唱歌』における音楽活動の特徴は、①リズムに重点をおき、楽曲自体の曲想によって子どもの情動に働きかけ、身体による自己表現へと導くこと、②幼児が自由に歌詞を作ることにより子どもの興味や関心を高めるとともに、創造性を向上させること、③子ども同士が表現を模倣し合い、子どもの自己表現を個人の表現として完結するのではなく集団で共有する機会を設けることにより、他者を受けとめる態度を育成しようとしていたことであることを明らかにし、米国の進歩主義思想が音楽面に反映されたものであることを指摘した。『遊戯唱歌』にみられる広島女学校附属幼稚園の音楽活動の特性は、子どもの興味・関心を起点とした指導法や教材であったこと、音楽活動は主体性・創造性をもった人間を育成する役割をもっていたことであるといえる。

第7章 キリスト教系幼稚園における音楽活動の実践—遺愛幼稚園における日誌をもとに—

第7章では、米国メソジスト監督派教会の宣教師が設立した北海道函館市に所在する遺愛幼稚園に焦点をあて、日誌に記載された曲目と幼稚園に残された楽譜から、日々の保育での音楽活動の実践内容を明らかにするとともに、本幼稚園における音楽活動の位置づけについて示した。

遺愛幼稚園では、祈禱歌をはじめ、日々の保育のなかで、子どもを多様な音楽に触れさせ、音楽と幼稚園での生活をより密接な関係に導こうとしていた。音楽活動に用いた曲は、米国の宣教師から借用した楽譜、および『幼稚園唱歌』『遊戯唱歌』といった、キリスト教系幼稚園において編纂された曲集のなかから選曲されたものが多くみられ、米国の音楽をとり入れた音楽活動が行われていた。ただし、『天長節』などの行事に用いられた曲をはじめ、日本で作曲された曲も歌われており、米国のみを音楽を用いていたわけではなく、遺愛幼稚園の保育現場では、目的に応じて日本の曲を採用していたと考えられる。

保育内容としては、1922(大正11)年までは中心統合法を取り入れた保育を行っており、音楽活動に関しても、設定されたテーマに基づいて曲が選択されていた。遊戯においては、大正半ば以降、扱う曲が「法則」「秩序」を学ぶことを目的とした曲から創造性を身につけることを目的とした曲へと変化していること、遊戯の曲が増加していることから、大正後期に遺愛幼稚園で保育の内容がより創造的な教育をめざすものに変化していた可能性があることを指摘した。

第 8 章 協同性の育成に着目した『幼稚園の遊戯歌』—JKU の音楽活動—

第 8 章では、日本のキリスト教系幼稚園に勤務する宣教師によって結成された JKU の音楽活動に関する取り組みについて、年次総会の議事録および『幼稚園の遊戯歌』を中心に分析した。

JKU は、日本のキリスト教系幼稚園の宣教師が幼児教育に関する様々な事項について教派を超えてお互いに協議し、情報交換をする機関として、1906（明治 39）年に設立された機関である。JKU はまた、第 3 章で考察した IKU の支部となっており、米国の情報を逐次入手していた。JKU の会員は、宗教的な視点から音楽を重視し、人間と神を結びつける鎖の一部であると捉えていた。JKU の会員にとって幼稚園における音楽活動は、神とつながるうえで大きな役割を担っていたといえる。

1921 年に JKU が刊行した『幼稚園の遊戯歌』には、米国の曲集から選定された、身体表現を用いることを意図した曲が多数含まれている。JKU が編纂した『幼稚園の遊戯歌』における特徴は、①歌詞および動作を考える部分を設け、身体表現することにより、子どもの興味・関心を高めるとともに、創造力の育成をめざしていること、②子どもが考えた身体表現を他の子どもが模倣し、子ども同士でアイデアを共有することにより、自分の表現を再確認するとともに、自己と他者とのつながりの中で社会的な経験をすることを志向していること、③他者と協同して身体表現を実践することを通して、社会性を培うことを志していることを示した。こうした主体性および創造性に重点をおく JKU 会員の思考の背景に、IKU の『幼稚園カリキュラム』など、20 世紀初期の米国における幼稚園の音楽活動の影響がみられた。またその根底には、本曲集を編纂した宣教師がめざした幼稚園の音楽活動に対する認識—すなわち、自分の身体を用いて外部に働きかけ、新しいものを生み出していくこと、および音楽活動をとおして他者との関係を築くこと—が反映されていることが明らかとなった。

終章 19-20 世紀転換期のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質

終章では、これまでに論じてきた 19-20 世紀転換期の米国の音楽活動および日本のキリスト教系幼稚園の曲集および実践の分析結果を総括し、日本のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質として、以下の点を示した。

第一に、キリスト教信仰を基盤とし、音楽活動をとおして人間形成をめざし、歌詞のみでなく曲調をとおしてその目的を体現しようと試みていたことである。その人間形成の基盤となっていたのは、神を崇拝すること、他者を愛する心を育てることであり、幼稚園における音楽活動の大きな役割は、神および他者とつながることであったと捉えることができる。

そして、神への信仰を軸としつつも、重点をおいている人間形成の内容および保育方法については、曲集によって違いがみられた。その背景には、19 世紀末から米国の幼稚園に関する教育理念およびそれに伴う幼稚園の音楽活動の変化が影響していると考えられる。

ハウの編纂した『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』は、フレーベルの理念に基づいて編纂されていた。フレーベルは、自然と調和すること、世界には法則性と秩序があること、そして世界の一部として自分があるという認識をもって社会に生きることを示している。『幼稚園唱歌』『幼稚園唱歌続編』においては、米国で作成されたフレーベルの『母の歌・遊戯と育児歌』の内容を表現した米国の曲集が援用され、法則性を表す恩物に関する曲や、秩序を重んずる道徳性を備えた曲が多く所収されている。音楽の役割は、歌詞による知識や道徳に関する内容を伝達することに加え、フレーベルが求めていた調和を音型で表現すること、およびリズムにより情動を喚起することにより、秩序の重要性を感得することであった。

広島女学校保姆師範科が編纂した『遊戯唱歌』では、米国で提唱された進歩主義思想が色濃く反映され、主体性および創造性の育成が目的とされていた。20 世紀初頭の米国では進歩主義思想に基づき、音

楽活動の大きな役割として、子どもが自ら考え表現するという創造性の育成が含まれていた。『遊戯唱歌』(1915)ではその目的が反映され、子どもを観察し、子どもが発案した歌詞や動きを曲にとり込む手法を用いることにより、自立心および創造性をもった人間の育成がめざされていた。

JKUが編纂した『幼稚園の遊戯歌』(1921)は、他者と協同して身体表現を実践することを通して、他者との関係を築くこと、および自己を認識することを志していた。JKUの母体であるIKUが発行した米国の標準カリキュラム『幼稚園カリキュラム』の音楽活動においては、自己表現を重視するとともに、他者の表現を認めることが示された。『幼稚園の遊戯歌』においても、子どもの表現を他の子どもが模倣する遊びが取り入れられていた。音楽活動には、自分の身体を用いて外部に働きかけ、新しいものを生み出していくという主体性および創造性、および模倣をとおして他者を自分に映し出し他者と共に生きていることを感受する力の育成という役割が付されていた。

遺愛幼稚園の1913(大正2)年から1926(大正15)年の日々の音楽活動についても、遊戯においては、扱う曲が法則および秩序を学ぶことを目的とした曲から創造力を培うことを目的とした曲へと変化していることから、大正後期に遺愛幼稚園で保育の内容がより主体的・創造的な能力育成を志向したものと変化していた可能性を見いだすことができた。

以上のように、20世紀初期のキリスト教系幼稚園においては、創造的な音楽活動をとおして、他者との関係を築くという役割が意識されていることが明らかとなった。

日本のキリスト教系以外の幼稚園においても、大正期には子どもの心情に沿う歌が作られるようになっていたが、子どもが歌詞や旋律および身体表現を創作するといった内容は日本の幼稚園の音楽活動ではみられなかった。

以上より、20世紀転換期のキリスト教系幼稚園における音楽活動の第一の特質は、キリスト教の信仰を起点とし、主体性・創造性・共生力の育成をめざした点であるといえよう。

第二の特質は、身体を用いた表現活動を人間形成の手段として積極的に取り入れていたことである。

キリスト教系幼稚園における身体表現の主な目的は、音楽を受動的に聴くのではなく、感受した音楽を身体で表現することをとおして、創造性を養うこと、および他者とつながることであった。すなわち、身体表現と主体性および創造性の育成は不可分の関係であったといえる。そして、この身体表現の目的は、日本の幼稚園で目的とされていた精神を快活にすることや身体能力の向上とは異なるものであった。

各曲集では、楽曲自体の曲想によって子どもの情動に働きかけ、身体表現へと導く工夫がなされ、JKUの総会においても、リズムに着目して音楽と身体感覚を結びつけるという活動方法に取り組んでいた。

ハウの『幼稚園唱歌集』『幼稚園唱歌集続編』に所収された曲では、フレーベルの歌詞およびその根本にある思想が、音型やリズムなどによって表現されていた。歌詞の内容が音楽によって表現され、子どもはその歌詞および音楽の流れに合わせて身体表現することにより、歌の内容を感受し理解することができるよう工夫されていた。『遊戯唱歌』『幼稚園の遊戯歌』では、自ら身体表現を考える曲が含まれており、創造的な身体表現を行うにあたっては、大きく飛び跳ねることを想定して音程を跳躍させることや、ブランコが揺れるといった拍子感を含むなどの音楽的な仕掛けが組み込まれていた。本研究で考察した曲集に日本の曲が含まれていなかったのは、こうした表現に子どもを導くうえで、当時の日本の曲では十分に果たせないと編纂者が判断したことがひとつの要因であると考えられる。

上記の分析から、身体表現を重視したキリスト教系幼稚園の音楽活動は、歌の趣意を音楽で表現するべく作曲された米国の楽曲により、その役割を果たすことができたと考えられる。

以上を総括すると、19-20世紀転換期の日本のキリスト教系幼稚園においては、キリスト教という信仰を基盤とすることで、フレーベルの教育思想を神との関わりのなかで理解したうえで、米国の新しい

教育思想を円滑に取り込んだ。そしてこのことが、当時の音楽活動における自立心および他者とのつながりを意識した自由な創造的表現、および身体表現を実現可能とすることに大きな役割を果たしたといえよう。

本研究においては、19-20 世紀転換期に日本のキリスト教系幼稚園で編纂された曲集の曲調および歌詞を精査し横断的に分析することにより、この時期のキリスト教系幼稚園における音楽活動の特質および実践の一端を解明した。しかし以下の点について、課題が残されている。

第一に、曲集を編纂した各幼稚園における音楽活動の実践内容を時系列的に探究することである。本研究では、時代によって曲集を編纂した各幼稚園の活動内容がいかに変容したのか、またはしなかったのかを把握するまでには至らなかった。今後、実際に曲集を用いた実践がどのように行われていたのか、日本の曲の導入過程も含め、日誌などの史料を精査する必要がある。第二に、米国において音楽活動に託された役割が、日本のキリスト教系幼稚園でいかに変容したかについて、日本の社会状況との関わりをふまえて解明する課題が残されている。第三に、日本のキリスト教系以外の幼稚園における音楽活動との綿密な比較を行うことである。キリスト教系幼稚園とキリスト教系以外の幼稚園が相互影響していたのかについて検証を行い、この時期の幼稚園の音楽活動を相対的に明らかにすることにより、日本の幼稚園における音楽活動の全体像が明らかになると考える。

III. 文献

i. 主要史料

Burchenal, E. (Arra. and Ed.) (1909) *Folk-Dances and Singing Games*, Boston Music Co.

Columbia University in the City of New York (1898-1921), *Teachers College Bulletin School of Education*

Announcement 1898-1921, Teachers College, Columbia University. (コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ所蔵)

Department of Education, the City of New York (1903) *Course of Study in Kindergarten Music Physical Training as adopted by the Board of Education*, Board of Superintendents.

Dykema, P.W. (1916) "The Spread of the Community Music Idea" *Annals of the American Academy of Political and Social Science*, Vol.67, pp.218-223. (JSTOR 所蔵)

Hill, Mildred J. Hill, Patty S. (1893), *Songs Stories for the Kindergarten*, Chicago, Clayton F. Summy. (Universal Library 所蔵)

Hill, P. S. (1914) "Experimental Studies in Kindergarten Theory and Practice: Introduction", *Teachers College Record*, Vol.15, No.1, pp.1-9. (コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ所蔵)

Hill, P.S. (edit.)(1923), *A Conduct Curriculum for the Kindergarten and First Grade*, Charles Scribner's Sons. (Universal Library 所蔵)

Hofer, Mari (1900) *Music for the Child World*, A. Flanagan Company.

Hofer, Mari (1901) *Children's Singing Games Old & New*, A. Flanagan Company.

Hofer, Mari (1902) *Music for the Child World Vol.2*, A. Flanagan Company.

Hofer, Mari (1907) *Popular Folk Games and Dances*, A. Flanagan Company.

Hofer, Mari R. (1914) "*Children's Singing Games Old and New*", A. Flanagan Co., Chicago, U.S.

Hubbard, C.B. ed. (1881) "*Merry Songs and Games for Use of Kindergarten*" Balmer and Weber Music House. (ニューヨーク市立図書館所蔵)

ハウ, エー, エル (1893) 『保育学初歩』 頌栄幼稚園 (明治保育文献集第5巻 1977年日本らいぶらり).

- ハウ, A.L. (1903) 『保育法講義録』 頌栄幼稚園 (明治保育文献集第 9 卷 1977 年日本らいぶらり) .
- フレーベル著, ハウ訳 (1906) 『母ノ遊戯及育児歌』 頌栄幼稚園. (国立国会図書館所蔵: デジタルコレクションを使用)
- ハウ, A.L. (1917) 『幸福なる可能事』 頌栄幼稚園.
- ハウ, エー, エル (1922) 『日本に於ける基督教主義幼稚園の年代的統計的歴史』, 出版所不明. (頌栄短期大学所蔵)
- ハウ, エー, エル編 (1912) 『京阪神幼稚園遊嬉』, 頌栄幼稚園保姆伝習所. (頌栄短期大学所蔵)
- ハウ, エー, エル選, 大賀壽吉編纂 (1896) 『幼稚園唱歌続編』 福音社. (国立国会図書館所蔵: デジタルコレクションを使用)
- ハウ, エー, エル選, 大和田建樹・松山高吉校閲 (1892) 『幼稚園唱歌』 福音社. (国立国会図書館所蔵: デジタルコレクションを使用)
- ハウ手書きメモ, 年代不明 (Newberry Library 所蔵)
- 広島女学校保姆師範科 (1915) 『広島女学校保姆師範科規則』 (英語版: Hiroshima Girls School Kindergarten Normal Department) 広島女学校保姆師範科. (聖和短期大学キリスト教教育・保育センター所蔵)
- 広島女学校附属幼稚園 (1914) 『保育綱目』 広島女学校附属幼稚園. (聖和短期大学キリスト教教育・保育センター所蔵)
- 広島女学校附属幼稚園保姆師範科編纂 (1915) 『遊戯唱歌』 広島女学校保姆師範科. (聖和短期大学キリスト教教育・保育センター所蔵. 楽譜データは広島女学院編『小さな者への大きな愛』附属 CD を使用)
- 遺愛幼稚園「楽譜」年不明 No.1~No.3 (遺愛幼稚園所蔵)
- 遺愛幼稚園日誌, 1913 (大正 2) ~1926 (大正 15) . (遺愛幼稚園所蔵)
- International Kindergarten Union *The Kindergarten*, International Kindergarten Union, 1913. (広島大学所蔵)
- 伊澤修二 (1901) 「幼児に課する唱歌遊戯の話」『婦人と子ども』1 巻 1 号, pp.61-66.
- Japan Mission of the Methodist Episcopal Church, South (1915) “Report of Miss Jane Fulton” Year book and minutes of the Japan Mission of the Methodist Episcopal Church, South. (広島女学院大学図書館所蔵)
- 京阪神連合保育会 (1904) 『京阪神連合保育会雑誌』 (復刻版 1983 臨川書店)
- Kern, M.R. (1900) “Song Composition”, *The Elementary school record*. v.1 1pp.33-48.
- Kern, M.R. (1901) “Music”, *The Elementary School Teacher and Course of Study*, 1901, pp.87-88.
- Kindergarten Union of Japan (1906-1926) *Annual Report of the Japan Kindergarten Union*, Fukuin Printing, Co., Ltd., Kobe, Japan. 本論文では日本らいぶらりによる復刻版 (1985) を用いた.
- 楠品次 (1909) 「幼児の比較力と想像力」『京阪神聯合保育會雑誌』第 23 号, pp.20-24, pp.72-73. (1983 年臨川書店復刻版)
- Methodist Episcopal Church, South (1899-1906) *Minute of the Japan Mission Annual Conference* (広島女学院大学所蔵)
- Methodist Episcopal Church, South (1907-1926) *Yearbook and Minute of the Japan Mission Annual Conference* (広島女学院大学所蔵)
- 文部省 (1892) 『学事法令説明書』文部省普通学務局. (国立国会図書館所蔵)
- Murray, May (edit.) (1906-1916) *Kindergarten Review* vol. 15-26, Milton Bradley, Co. (vol. 15-24 : 同志社大学所蔵, vol.25-26 : 奈良女子大学学術情報センター所蔵)
- 中野ウメのメモ 筆記年不明 (遺愛幼稚園所蔵)
- 野田千代 (1915) 「幼稚園観察記」『婦人と子ども』第 15 巻, pp. 380-390, (1979 年フレーベル會復刻)

版)

- 大蔵省印刷局編 (1899) 『官報』 第 4796 号明治 32 年 6 月 28 日付, 大蔵省印刷局. (国立国会図書館デジタルコレクション所蔵)
- Palmer, E. (1905) *New York Public School*, The Macmillan Company. (コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ所蔵)
- Parker, H., ed. (1919) *The Progressive Music Series Teachers Manual Vol.1, for 1st, 2nd, and 3rd grades*, Silver Burdett and Co. (コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ所蔵)
- Payne, Bertha (1902) “Pedagogy of the Kindergarten”, *The Element School Teacher and Course of Study*, pp.5-9. (シカゴ大学所蔵)
- Poulsson, Emilie and Laura (edit.) (1897-1905) *Kindergarten Review vol. 8-14*, Milton Bradley, Co. vol.8-9, 11 : Harvard University 所蔵, vol. 12-14 : 同志社大学所蔵)
- Poulsson, E. (1911) *Holiday Songs and Every Day Songs and Games*, Milton Bradley company.
- Reese, Lelia (1905) “The value of music in child training” *Kindergarten Review* vol. 15, Milton Bradley, Co., pp. 533-535.
- Russel, J.E. (1900) “The Organization and Administration of Teachers College”, *Teachers College Record*, Vol.1, No.1. (コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ所蔵)
- Shapiro Michael Steven (1983) *Child’s Garden: The Kindergarten Movement from Froebel to Dewey*, The Pennsylvania State University Press.
- Smith, Eleanor (1887) “*Songs for Little Children for the Kindergartens and Primary Schools Part 1*”, Milton Bradley Co.
- Smith, Eleanor (1894) “*Songs for Little Children for the Kindergartens and Primary Schools Part 2*”, Milton Bradley Co.
- Smith, Eleanor (1908) *Music Course*, American Book Co. (ノースウェスタン大学所蔵)
- Smith, Eleanor (1911) *Music Primer*, American Book Co. (ハーバード大学所蔵)
- Subcommittee on Curriculum of the Bureau of Education Committee of the International Kindergarten Union (1914) *Kindergartens in the United States – Statistics and Present Problems*, Department of the Interior Bureau of Education Bulletin, 1914, No. 6., pp.16-92. (コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ所蔵)
- Subcommittee on Curriculum of the Bureau of Education Committee of the International Kindergarten Union (1919) *The Kindergarten Curriculum*, Department of the Interior Bureau of Education Bulletin, 1919, No.16. (トロント大学所蔵)
- Subcommittee on Curriculum of the Bureau of Education Committee of the International Kindergarten Union (1922), *A Kindergarten -First- Grade Curriculum*, Department of the Interior Bureau of Education Bulletin, 1922, No. 15. (米国議会図書館所蔵)
- The Chicago Froebel Association (1876) *Training School for Kindergartners*, University College (Newberry 図書館所蔵)
- The Chicago Froebel Association (1904) *Training School for Kindergartners*, University College (Newberry 図書館所蔵)
- The University of Chicago (1901-1920) *The School of Education 1901-1920*, The University of Chicago. (シカゴ大学所蔵)

- Thorn, Alice Green (1929) *Music for Young Children*, Charles Scribner S Sons. (ウェルズリーカレッジ所蔵)
- 土川五郎 (1917) 『律動遊戯第一集』(1978年日本らいぶらり『大正・昭和保育文献集第4巻』を使用)
- 土川五郎 (1918) 「律動遊戯の過去及将来」『婦人と子ども』第18巻4号, p.136. (1979年フレーベル会復刻版)
- United States Bureau of Education Kindergarten Training Schools (1916), *Bulletin*, 1916, No.5, Washington Government Printing Office. (京都大学所蔵)
- 幼稚園遊戯歌委員会 (1921) 『幼稚園の遊戯歌』(*Kindergarten Songs and Games*), 幼稚園遊戯歌委員. (遺愛幼稚園所蔵)
- Walker, G., Jenks, H. (1887) *Songs and Games for Little Ones*, Oliver Diston & Company.

ii. 主要参考文献

- 阿部真美子・別府愛・滝沢和彦・菅野文彦編 (1988) 『アメリカの幼稚園運動』 明治図書.
- 阿部真美子 (1995) 「アメリカ保育者養成史—幼稚園教師育成の発生及び変化の過程—」 岩崎次男編 『幼児教育制度の発展と保育者養成』 玉川大学出版部, pp.222-239.
- 秋山治子 (1997) 「東京女子師範学校附属幼稚園の保育音楽について：先行研究の検証及び音楽美学的立場からの考察」『白梅学園短期大学紀要』第33巻, pp.57-72.
- Alper, C. D. (1980). “The Early Childhood Song Books of Eleanor Smith: Their Affinity with the Philosophy of Friedrich Froebel”, *Journal of Research in Music Education*, 28 (2), pp.111-117.
- Alper, C. D. (1985) “Instinct & Imagination: Froebel's Principal of Self-Activity in Turn-of- the-Century Songbooks”, *Music Educators Journal* Vol. 72, No. 2, pp.53-56, 58-61, 63.
- Alvarez, B. J. (1981), “Preschool Music Education and Research on the Musical Development of Preschool Children:1900 to 1980”, Ph.D. dissertation, The University of Michigan.
- 荒巻治美 (2001) 『アメリカ音楽科教育成立史研究』 風間書房.
- 東ゆかり (2015) 「保育唱歌におけるフレーベル主義—豊田英雄の文書を中心に—」『鎌倉女子大学学術研究所報』第15号, pp.73-79.
- 東ゆかり (2016) 「保育唱歌におけるフレーベル主義—豊田英雄の文書を中心に—」『鎌倉女子大学紀要』第16巻, pp.31-41.
- 東ゆかり (2017) 「保育唱歌におけるフレーベル主義—作曲家宮内省式部寮雅楽課怜人の立場から—」『鎌倉女子大学紀要』第24巻, pp.39-47.
- Beyer, Rick (2013) *The Greatest Music Stories Never Told: 100 Tales from Music History to Astonish, Bewilder, and Stupefy*, HarperCollins, p.121.
- クランメル, ジャン・W編 (1996) 『来日メソジスト宣教師事典』 教文館.
- Crawford, Richard (2005) *America's Musical Life-A History-*, W.W.Norton&Company.
- Cremin, L.A.(1954), *A History of Teachers College Columbia University*, Columbia University Press.
- DuCharme, Catherine, C. (1996) “Early Kindergarten Periodicals in the United States (1850-1930)”, *ERIC Accession Number: ED391594*.
- Elrod, P. G. (2001), “Vocal Music at Hull-House, 1889-1942: An Overview of Choral and Singing Class Events and a Study of the Life and Works of Eleanor Smith, Founder of the Hull-House Music School”, イリノイ大学博士論文.
- 遠座知恵 (2013) 『近代日本におけるプロジェクト・メソッドの受容』 風間書房.

- 古市久子, 遠藤晶, 寺尾正 (2001) 「幼児の音楽教育における黎明期の実際とその表現的意味」『大阪教育大学紀要第 IV 部門教育科学』第 50 卷 (1), pp.93-108.
- フレーベル著, ハウ訳 (2009) 『母の歌・遊戯と育児の歌』(現代語版) 頌栄短期大学.
- フレーベル著, 小原國芳・莊司雅子訳 (2008) 『人間の教育』(『フレーベル全集』第 2 卷)
- 藤田芙美子 (1980) 「音楽取調掛編纂「幼稚園唱歌集」における欧米幼稚園唱歌・学校唱歌のとり入れ方」『幼児の教育』第 79 卷 (2), pp.44-55.
- 藤原保利 (1999) 「アメリカ幼稚園運動史—1856 年から 1923 年までを中心に—」『佐野国際情報短期大学研究紀要』第 10 号, pp.171-186.
- 福原昌恵 (1992) 「草創期幼稚園における唱歌遊戯 (2) 愛珠幼稚園における保育を中心に」『新潟大学教育学部紀要, 人文・社会科学編』第 33 卷 (2), pp.99-111.
- Green, S. L. (1998) "Art for Life's Sake": Music Schools and Activities in United States Social Settlements, 1892-1942", ウィスコンシン・メディソン大学博士論文.
- 原子はるみ・伊藤勝志 (2010) 「函館の幼稚園教育草創期の保育内容—遺愛幼稚園を中心に」『函館短期大学紀要』第 36 号, pp.97-106.
- ハウ, A.L. 著, 山中茂子訳 (1993) 『A.L.ハウ書簡集: 日本の幼児教育に生涯を捧げたアニーL.ハウがアメリカの両親に宛てた手紙 1887~1929 年』頌栄短期大学.
- 橋川喜美代 (2003) 『保育形態論の変遷』春風社.
- 橋川喜美代 (2005) 「A.L.ハウの幼児教育思想とキリスト教主義」『鳴門教育大学研究紀要』(教育科学編) 第 20 卷, pp.81-91.
- 橋本美保・田中智志編著 (2015) 『大正新教育の思想 生命の躍動』東信堂.
- 橋本美保編著 (2018) 『大正新教育の受容史』東信堂.
- 広島女学院 (1956) 『創立七拾周年記念誌』広島女学院.
- 広島女学院百年史編集委員会編 (1991) 『広島女学院百年史』広島女学院百年史刊行委員会.
- 広島女学院幼児教育史刊行委員会 (2006) 『小さき者への大きな愛 広島女学院ゲーンズ幼稚園の歴史と M.クックの貢献』広島女学院.
- 遺愛 100 年史編纂委員会 (1987) 『遺愛百年史』遺愛学院.
- 池田綺香 (2016) 1895 年から 1947 年における遺愛幼稚園の保育内容の変遷『函館教育史論集』北海道教育大学函館校, pp.18-33.
- 今井民子・笹森建英 (1992) 「日本の音楽教育に於ける身体表現のあり方: 明治期の唱歌遊戯を中心として, 舞踊と音楽の関係についての理論」『弘前大学教育学部紀要』第 67 卷, pp.45-63.
- 井本美穂 (2014) 「明治期から大正期におけるキリスト教系幼稚園の音楽活動に関する研究—JKU 年次報告書を中心に—」『教育学研究紀要 (CD-ROM 版)』第 59 卷, pp.43-48.
- 井本美穂 (2014a) 「米国の 20 世紀初期における幼稚園の音楽教育に関する研究: *A Conduct Curriculum for the Kindergarten and First Grade* を中心に」音楽文化教育学研究紀要 (26), 2014a, pp.39-46.
- 井本美穂 (2014b) 「米国の 20 世紀初期における幼稚園音楽カリキュラム: 『幼稚園カリキュラム』『幼稚園と第 1 学年のカリキュラム』における音楽の位置づけ」音楽学習研究: 音楽学習学会紀要 10, pp.73-84.
- 井本美穂 (2015) 「米国の 20 世紀初期における幼稚園音楽カリキュラム: 『幼稚園カリキュラム』『幼稚園と第 1 学年のカリキュラム』における音楽の位置づけ」『音楽学習研究』音楽学習学会第 10 卷,

pp.73-84.

- 井本美穂 (2016) 「大正期の広島女学校附属保姆師範科における音楽教育—楽譜集『遊戯唱歌』の分析をとおして—」『音楽学習研究』第 11 巻, 音楽学習学会, pp.13-24.
- 井本美穂 (2017) 「『京阪神幼稚園遊嬉』との比較にみる大正期のキリスト教系幼稚園における音楽的な身体表現」『教育学研究紀要』第 62 巻 (CD-ROM 版), 中国四国教育学会, pp.55-60.
- 井本美穂 (2020) 「近代キリスト教系幼稚園における音楽活動にみる身体表現—『幼稚園の遊戯歌』の分析をとおして—」『国際幼児教育研究』Vol.27, 国際幼児教育学会, pp.21-38.
- 稲田嶺一郎 (1982) 「本邦幼児音楽教育史考—明治期の唱歌教育 (其二)」『美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要』第 27 巻, pp.21-34.
- 稲田嶺一郎 (1983) 「本邦幼児音楽教育史考—明治期の唱歌教育 (其三)」『美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要』第 28 巻, pp.20-32.
- 稲田嶺一郎 (1984) 「明治期の就学前唱歌教育 (四) —祝日大祭日儀式唱歌と幼稚園—」『美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要』第 29 巻, pp.12-26.
- 石垣恵美子 (1985) 「J.K.U.と保姆養成学校」Annual Report of the Japan Kindergarten Union Vol. 7, 日本らいぶらり, pp.410-429.
- 伊藤敦美 (2016) 「シカゴ大学教師教育カリキュラム—デューイ教育学科長時代と教育学部長時代—」『敬和学園大学研究紀要』第 25 巻, pp. 147-166.
- 柿岡玲子 (2005) 『明治後期幼稚園保育の展開過程—東基吉の保育論を中心に—』風間書房.
- 金子嘉秀 (2014) 「明治後期の幼稚園におけるフレーベル主義をめぐる保育実践の変容に関する研究—京阪神および広島女学校附属幼稚園を中心として—」広島大学博士論文.
- 金子知恵 (2006) 「コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジにおける創設期のカリキュラム—20 世紀初頭におけるアメリカ教員養成の課題—」『教育学研究年報』第 25 号, pp.23-33.
- 金本佳世 (1991) 「幼児音楽教材についての一考察—大正期の幼児教育理論における唱歌の意義と「大正幼年唱歌」」『武蔵野音楽大学研究紀要』第 23 巻, pp.25-43.
- キャサリーン・キャンプ・メイヒュー, アンナ・キャンプ・エドワーズ著, 小柳正司監訳 (2017) 『デューイ・スクール—シカゴ大学実験学校: 1896~1903 年—』あいり出版.
- キリスト教保育連盟百年史編纂委員会編 (1986) 『日本キリスト教保育百年史』キリスト教保育連盟.
- 桑田親吾訳 (1978) 『幼稚園 下巻』文部省.
- 小林恵子 (1985) 「婦人宣教師の幼児保育への貢献」Annual Report of the Japan Kindergarten Union Vol. 7, 日本らいぶらり, pp.391-409.
- 児玉満 (1956) 「遺愛幼稚園創立のころ」『幼児の教育』日本幼稚園協会, 第 55 巻, p.13.
- 小山みずえ (2012) 『近代日本幼稚園教育実践史の研究』学術出版会.
- 小柳正司 (2007) シカゴ大学時代のジョン・デューイの書簡について (5)—シカゴ大学教育学部の組織改革をめぐる—1902 年~1903 年『鹿児島大学教育学部研究紀要. 教育科学編』第 58 巻, pp.45-79.
- 小柳正司 (2008) シカゴ大学時代のジョン・デューイの書簡について (6) —シカゴ大学教育学部の改組をめぐるデューイと教員団との対立について: 1903 年~1904 年—『鹿児島大学教育学部研究紀要. 教育科学編』第 59 巻, pp.189-281.
- 倉橋惣三・新庄よしこ (1934) 『日本幼稚園史』東洋図書.

- 黒田成子 (1985) 「J.K.U.の歴史とその役割」 *Annual Report of the Japan Kindergarten Union Vol. 7*, 日本ら
いぶらり, pp.357-374.
- Lascarides, V.C. and Hinitz (2000), B.F. *History of Early Childhood Education*, Routledge.
- Mark, L.K. and Gary, C.L. (2007), *A History of American Music Education (3rd edition)*, The National Association
for Music Education.
- 丸尾譲 (1983) 「アメリカにおけるフレーベル主義の受容と展開—フレーベル主義幼稚園の克服と新生
—」『広島女子大学家政学部紀要』第 19 巻, pp.155-164.
- 丸尾譲 (1985) 「アメリカにおけるフレーベル主義の受容と展開—カルヴィニズムからフレーベル主義
へ—」『広島女子大学家政学部紀要』第 21 巻, pp.23-37.
- 松村将 (1994) 『シカゴの新学校—デューイ・スクールとパーカー・スクール』法律文化社.
- Miller, T.W. (1966) “The Influence of Progressivism on Music Education, 1917-1947”, *Journal of Research in
Music Education*, Vol. 14, No. 1, pp. 3-16.
- 三村真弓 (1996) 「明治期幼稚園唱歌教育における唱歌教材に関する研究：教材の形態的側面の検討を
中心に」『教科教育学研究』No.11, pp.27-36.
- 水野恵子 (1987) 「大正期の遊戯教育について—土川五郎の遊戯教育論—」『愛知県立大学文学部論集
児童教育学科編』第 36 巻, pp.25-37.
- 村岡敏子 (2008) 「エーエルハウ著『保育学初歩』読解」『頌栄短期大学研究紀要』第 37 巻, pp.1-13.
- 持田葉子 (2016) 「広島女学校附属幼稚園における音楽活動について：広島女学校附属幼稚園・保姆師範
科編纂「遊戯唱歌」の考察を通して」『聖和短期大学紀要(1)』, pp.39-47.
- 文部省 (1979) 『幼稚園教育百年史』ひかりのくに株式会社.
- 永井理恵子 (2011) 『近代日本キリスト教主義幼稚園の保育と園舎—遺愛幼稚園における幼児教育の展
開』学文社.
- 永井優美 (2016) 『近代日本保育者養成史の研究：キリスト教系保姆養成機関を中心に』, 風間書房.
- 長島真人 (2006) 「19 世紀アメリカの音楽科教育が示唆する教育実践の理論と思想—研究活動の組織化
と教材の開発を中心に—」『学校音楽教育研究：日本学校音楽教育実践学会紀要』10 巻, pp.47-48.
- 名須川知子 (2004) 『唱歌遊戯作品における身体表現の変遷』風間書房
- 日本キリスト教保育連盟百年史編纂委員 (1986) 『日本キリスト教保育百年史』キリスト教保育連盟.
- 日本保育学会 (1969) 『日本幼児保育史』第三巻, フレーベル館.
- 西垣光代 (2014) 『主に望みをおいて—日本の幼児教育に貢献したアニーL.ハウ—』キリスト新聞社.
- 西野聡子 (2016) 「A.L.ハウによる『幼稚園唱歌』の出版」『東京家政大学研究紀要 1 人文社会科学』第
56 巻, pp.21-30.
- 小田切快三編 (1966) 『ゲーンズ先生物語』広島女学院.
- 小笠原道雄 (1994) 『フレーベルとその時代』玉川大学出版部
- 大沼覚子 (2011) 「大正から昭和初期の保育における音楽活動の理論と実際」東京芸術大学博士論文.
- 大戸富子 (1985) 「J.K.U.年次報告書の背景と今日的意義」 *Annual Report of the Japan Kindergarten Union
Vol. 7*, 日本ら
いぶらり, pp.375-390.
- Roberta Wollons (ed.) (2000) *Kindergartens and Cultures: The Global Diffusion of an Idea*, Yale University
Press.
- Ross, E.D. (1976) *The Kindergarten Crusade: The Establishment of Preschool Education in the United States*,

Ohio University Press Athens.

- 猿谷要 (1991) 『物語 アメリカの歴史』 中公新書.
- 坂田嘉郎 (1973) 「アメリカ幼稚園運動におけるプログレッシブ幼児教育論—P.S.ヒルを中心として」 『聖和女子大学論集』 第3号, pp.35-51.
- 佐藤学 (1990) 『米国カリキュラム改造史研究』 東京大学出版会.
- 佐藤隆之 (2018) 『市民を育てる学校—アメリカ進歩主義教育の実験』 勁草書房.
- 白川蓉子 (1957) 「明治初期における「唱歌」と体操科「遊戯」の性質」 『教育学研究』 第42巻第1号, pp.31-40.
- 頌栄短期大学同窓会 (1974) 『頌栄保育学院 85周年記念誌』 頌栄保育学院.
- 頌栄保育学院 (1949) 『頌栄とハウ先生』 頌栄保育学院.
- 清水陽子 (1987) 「年次報告書からみた明治・大正期における J.K.U.の活動について」 『日本保育学会大会研究論文集』 (40), 日本保育学会, pp.16-17.
- 清水陽子 (1988) 「キリスト教主義幼稚園普及における J.K.U.の役割について」 『日本保育学会大会研究論文集』 (41), 日本保育学会, pp.664-665.
- 清水陽子 (1988) 「Japan Kindergarten Union (日本幼稚園連盟) 会員の遊戯観と遊戯研究」 『西南女学院短期大学研究紀要』 第35号, pp.57-62.
- 杉浦英樹 (1996) 「プロジェクト法の源流 (1): コロンビア大学附属スペイヤー校の幼稚園カリキュラムと P.S.ヒル」 『上越教育大学研究紀要』 第16号 (1), pp.139-159.
- 杉浦英樹 (2000) 「プロジェクト法の源流 (2): コロンビア大学附属ホーレスマン校と『コンダクトカリキュラム』」 『上越教育大学研究紀要』 第19号 (2), pp.631-651.
- 聖和保育史刊行委員会 (1985) 『聖和保育史』 聖和大学.
- Stoddard, E. M. (1968) “Frances Elliott Clark: Her Life and Contributions to Music Education”, ブリガムヤング大学博士論文.
- 高道基 (1996) 『幼児教育の系譜と頌栄』 頌栄保育学院.
- 高野勝夫 (1973) 『エ・エル・ハウ女史と頌栄の歩み』 頌栄短期大学.
- 高月教恵 (2010) 『日本における保育実践史研究—大正デモクラシー期を中心に—』 御茶の水書房.
- 武内裕明 (2009) 「19世紀後期の米国における幼稚園音楽教育の発展—1880年代の幼稚園用の歌の本を手がかりとして—」 『広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要』 XXI, pp.27-36.
- 武内裕明 (2012) 「米国における幼稚園用の歌の本の発展の意義—20世紀初頭の Vandewalker と Hill の見解の比較を通じて—」 『広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要』 XXIV, pp.31-38.
- 滝沢和彦 (1986) 「『コンダクト・カリキュラム』における「習慣形成」—「社会的適法」としての道徳教育—」 『教育と教育思想』 第7号, pp.14-22.
- 滝沢和彦 (1987) 「進歩主義幼児教育理論の成立に関する一考察」 『筑波大学教育学系論集』 第11巻(2), pp.77-89.
- 滝田善子 (2002) 「A.L.ハウの保育観と頌栄幼稚園における実践—音楽を中心として」 『関西教育学会紀要』 第26巻, pp.116-120.
- 田中まさ子 (1998) 『教育方法史研究』 風間書房.
- 田中喜美 (1988) 「米国における教師養成機関の大学院化と教科教育: コロンビア大学ティーチャーズカレッジでの技術教育分野を中心に」 『日本の教育史学: 教育史学会紀要』 第31号, pp.141-162.

- 田中喜美 (2012) 「米国における教師養成機関の大学院化と教科教育：コロンビア大学ティーチャーズカレッジでの技術教育分野を中心に」『日本の教育史学：教育史学会紀要』第 31 号, pp.141-162.
- 田中智志・橋本美保 (2012) 『プロジェクト活動：知と生を結ぶ学び』東京大学出版会.
- 田中優美 (2011) 「国際幼稚園連盟 (IKU) による幼稚園教員養成カリキュラムの標準化—連邦教育局報告書 *Kindergarten Training Schools* の分析より—」『アメリカ教育学会紀要』第 22 号, pp.43-57.
- Tellstrom, A. T. (1971) *Music in American Education, past and present*, Holt, Rhinehart & Winston. 翻訳版は, テルストロム, T. 著, 川島正二訳 (1985) 『アメリカ音楽教育史』音楽鑑賞教育振興会.
- Troen, S.K. (1975) *The Public and the Schools: Shaping the St. Louis System, 1838-1920*, University of Missouri Press.
- Vandewalker, N.C. (1908) *The Kindergarten in American Education*, MacMilan Company. (翻訳版は, ニーナ・C・バンデウォーカー著, 中谷彪監訳 (1987) 『アメリカ幼稚園発達史』教育開発研究所)
- 山浦菊子・中村千晶 (2000) 「幼児の歌う活動に関する一考察 その 4 の 1—本学でなされてきた音楽教育について—」『聖和大学論集』第 28 号, pp.39-51.
- 山浦菊子・中村千晶 (2001) 「幼児の歌う活動に関する一考察 その 4 の 2—2つのコンダクトカリキュラムを通して—」『聖和大学論集 教育学系』第 29 号, pp.95-108.
- 山下恭子 (2010) 「明治期及び大正期の唱歌教育について：幼稚園における唱歌教育の位置づけ」『佐賀女子短期大学』第 44 巻, pp.61-70.
- 山森泉・児玉衣子 (2007) 「北陸地方のキリスト教保育史：JKU 年報からの翻訳と解説 (4)」『北陸学院短期大学紀要』第 39 巻, pp.79-104.
- 湯川嘉津美 (2001) 『日本幼稚園成立史の研究』風間書房.

正誤表（井本美穂博士論文要旨）

p.5 10行目

【正】

西海（2016）

【誤】

西野（2016）

p.17 30行目

【正】

西海聡子（2016）

【誤】

西野聡子（2016）